



9月号

学校だより

平成29年 8月29日
さいたま市立植竹小学校

〒331-0813 さいたま市北区植竹町2-1
TEL 048-663-7627
FAX 048-663-9885

児童数 1年124名・2年138名・3年121名・4年134名・5年124名・6年137名・7組17名 計795名

学校教育目標

○すすんでまなぶ子

○たすけあう子

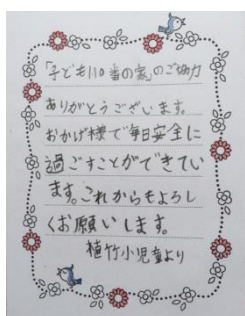
○げんきな子

表札訪問と「こども110番の家」の訪問

校長 鯨井 幹夫

今年の夏は、8月中旬から梅雨に逆戻りしたような天候が続いたかと思えば、後半はまた暑い日が続く毎日でした。体調不良も心配されましたが、それでも子どもたちにとっては楽しい夏休みだったのではないでしょうか。そんな夏休みを名残惜しみながら、今日から2学期が始まりました。始業式では、一段とたくましくなった子どもたちと再会することができました。この子どもたちがさらに大きく成長できるよう、今学期も教職員が力を合わせて一層努力してまいります。

さて、この夏休みを利用して、今年も教職員が表札訪問と「こども110番の家」の訪問をしました。本校では、個人面談を中心に行っている関係で家庭訪問を実施していません。そこで、担任している子どもたちの家や地域を確認するため、夏休みを利用して担任が表札訪問を行っています。そこでは、子どもたちが遊ぶ公園や通学路の危険箇所なども確認できるし、地域の様子を知ることできます。また、それと並行して教職員が「こども110番の家」も訪問しています。現在90件ほどの事業所と個人住宅が協力してくださっています。



普段のお礼と更新のお願いをするため、5年生児童が書いたお礼の手紙と更新用紙をもって訪問しています。不在の場合は手紙を投函していますが、在宅されている場合は直接お礼を申し上げ、子どもたちの様子についてお話を伺うことにしています。植竹小学校と地域とのつながりを今よりも強めるため実施を始めましたが、少しずつですが成果が出てきているように感じます。多忙ゆえ学校の中に

留まりがちな教職員が地域の皆さんと顔を会わせる機会が生まれたこと、訪問を機会に地域の方とのコミュニケーションが育まれつつあることなど、実施してよかったと思うことがいくつもあります。過日は「こども110番の家」で協力してくださっているお宅の方が、わざわざ校長室まで更新書類を届けてくださいました。ありがたいことです。校長として直接お礼を申し上げることができました。また、右下に掲載した児童文学書は、職員が訪問した際に学校の図書室にといただいたものです。寄贈者は、福島のりよさんという方で、盆栽町にお住まいです。1937年生まれの児童文学作家で、このほかにも『ホテルがとんだ日』『南蛮のうた』『ショウブと天晴じいさん』（けやき書房）など多くの作品を書かれています。寄贈していただいた『風船爆弾』は、月刊こども雑誌『子ども世界』

（けやき書房）に平成3年5月から1年半にわたって連載されたものを骨子として加筆し、今年2月に富山房インターナショナルから出版されたものです。福島さんは「戦後70年を経て、子どもたちや戦争を知らない大人たちへ、ぜひ、語り伝えておきたい」「平和について考えるきっかけになれば、このうえない喜びである」と、あとがきで書かれています。小学校4年生の関本勝をはじめ、大人も含めた登場人物の多くが思いやりのあるやさしい人物として描かれ、戦争のさなかお互いに助け合って生きていく姿が歴史的・風土的な事実の中で強く生きる姿として描かれている作品です。著者直筆サイン入りの本は、今後大切に活用していきたいと思います。



植竹小学校を支えてくれているこの地域には、盆栽をはじめ多くの特色や財産があります。文化や産業、公共施設などいろいろな面で、今後も学校教育に生かしていくことが大切であると考えています。この度の福島のりよさんという児童文学作家との出会いをはじめ、更に地域との連携を深め、植竹小学校の教育を充実させていきたいと思っています。